

見学調査報告書

ゼミ名 : 木立 真直ゼミ
調査日 : 2019年4月9日(火)
調査先 : 一般社団法人 家の光協会
対応者 : 一般社団法人 家の光協会 総務本部より2名様、
編集本部より3名様、出版本部より1名様
授業科目名 : 演習 I
参加学生数 : 学生 18名、院生 2名、教員 2名 計 22名
(東京大学矢坂ゼミと合同実施)

調査の目的

JAグループの出版・文化事業を担う家の光協会にて、JAグループの概要や家の光協会が発行する雑誌・書籍の持つ役割について学ぶ。

調査結果

家の光協会における事業について、「JAグループの概要」と「出版事業」についての大きくわけて二点をお話いただき、その後質疑応答にご対応いただいた。

JAは農業者を中心とした協同組合である。JAグループは、全国段階、市町村段階、そして農家組合員に分けられており、「代表・総合調整・経営相談事業」や「経済事業」、「信用事業」など8つの事業を行っている。貴協会はその中の全国段階における出版・文化事業に位置している。

出版事業として、『家の光』や『ちゃぐりん』など食と農に関する書籍・雑誌を発行しており、メインとなる『家の光』は、「食と農」「暮らし」「協同」「家族」の4つを柱とし、地域の人々の暮らしに役立つ情報を掲載している。また、現代において、インターネットを通じた情報提供など、メディアの多様化・革新が求められていても、紙から電子媒体への乗り換えは考えていない。注力するのは読者による記事活用の後押しであることが分かった。

また、家の光協会では、掲載された記事を活用し様々な文化活動を行っている。年に一度、記事活用の成果を披露する場として「家の光大会」を開催している。その目的は、生活改善や協同組合活動などについての情報提供、教育を一人でも多くの人に共感・共有してもらおうことである。

公益活動として、出版した書籍・雑誌に掲載されたレシピを用いた料理教室や家の光料理コンテストを開催し、食と農への理解を深める活動も行っている。

ご対応者より事前質問に対しての解答をお話いただいた。まず『家の光』の読者層は80%以上が45歳以上、最も厚い読者層は65～69歳と紙媒体に触れる機会が多い世代が中心になっているため、デジタル化が進む現代で雑誌という媒体のみで成功していることは衝撃的だった。また、書店に並ぶ雑誌であれば販売が成立した時点で発刊の目的は完了するが、『家の光』ではその記事が活用されることを目的としている点には協同組合の素晴らしさ

を感じた。

当日はご丁寧に質疑応答に対応していただき、事前学習から抱いていた疑問や、今回の訪問の目的であった、家の光協会の発行する雑誌や書籍の持つ役割について学ぶことができた。一部の雑誌は、大衆向けとせず、販路を絞り JA を通してのみ販売されるインナー向けの雑誌としているのはなぜかという質問には、書店で販売を行う場合、売れなかった場合に発生するロスを避ける狙いがあり、販売収入を読者イベントなどに充てることで、読者らの雑誌の活用路線を広げるためであるご回答いただいた。雑誌を通して読者と読者をつなげるための戦略の 1 つとして販路を絞るという方法を取っていることがわかり、家の光協会の読者を大切にす精神からのものであると推測される。また、『家の光』について、時代とともに紙面の変遷はあるのかという質問には、同誌で行われた統計から、1世帯の想定人数を減らすなどの対応を具体的にはしており、「家族オンリー」から「家族+地域」に対象を広げ、地域とのつながりを大切にできるような要素を大きくしているという。非常に歴史ある雑誌であり、読者らの支持を受け続けるためには時代に合わせて少しずつ変容しながらも、核となる柱は変えず、読者のためとなるあり方を模索し続ける姿勢を学ぶことができた。

協同組合は企業と異なり、同じ目的をもった個人や事業者が集まり、お互いに助け合う組織だと知り、今回の協会訪問を通して協同組合は目的に向けてどのような事業を行っているかを詳しく学ぶことができた。その中で、デジタル化が進んでいるにも関わらず、本から電子媒体への乗り換えは考えていないということに衝撃を受けた。利益よりも組合員の生産や生活を守り向上させたいという意思が強く伝わってきた。熊本地震の事例においては、農業従事者以外にもつながりがあるために、苦境を思いやることができるのだろう。家の光協会の発行する雑誌が読者同士のつながりを生みだしているからこそ、心配し気に掛けるだけでなく、実際に行動に移すことができる。家の光協会が重点を置く「人と人とのつながり」の大切さを実感することができた。

末筆ではありますが、今回このような訪問を受け入れてくださった家の光協会の皆様に心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

(文責：菅野 ほか、伊藤 なな子、箕輪 治展、タン リジ)